

第45回技能五輪国際大会が8月22日から27日までロシア連邦・カザンにて開催された。本大会に日本代表として同窓生3名が出場し、見事に入賞を果たした。

今号では3選手の世界大会に参加しての感想を紹介する。

# 第45回技能五輪国際大会 ロシア連邦・カザン大会 出場3選手 上位入賞



第440号

2019年11月29日発行  
日工同窓会広報委員会  
編集責任者

滝澤 之靖  
発行人 細金 敦

日工同窓会事務局  
日工同窓会館  
〒317-0077  
日立市城南町5丁目14番13号  
TEL (0294) - 21 - 5237  
FAX (0294) - 21 - 5241  
E-mail:  
dosokaij@net1.jway.ne.jp  
http://nikkoudousoukainet/

印刷所  
大成印刷株式会社

## 第45回技能五輪 国際大会に出場して

◎菊池 優斗 (101卒) 選手

CNCフライス盤職種 銀メダル  
(株) 日立ハイテクノロジーズ



私はロシア連邦・カザンで開催された第45回技能五輪国際大会にCNCフライス盤職種の日本代表として出場しました。

CNCフライス盤職種は3種類の課題を4日間で行います。各課題とも、競技の最初に図面を支給され、15分間の検討時間の後に本競技に移ります。課題によって検討から完成までを1日で通して実施する「通し課題」と、PC競技と機械競技を別日で実施する課題とがあります。通し課題は制限時間も短く、特に難しい課題で私は苦手としていました。

## 今号の主な内容

第45回技能五輪国際大会

1 ~ 2

2019年度 支部役員研修会

3 ~ 5

特別寄稿

東北学院大 菅山教授

支部長登場・県南地区懇親会

学校だより

本部会員の頁

自分を元気にする方法

役員会議事録

社外表彰、職制・特称任用

会員の消息、編集後記

14

13

10 ~ 12

8 ~ 9

7

6

大会初日に通し課題を実施するグループとなりましたが、普段から想定し訓練してきたので戸惑いはありませんでした。PC競技の難易度はそれほどではないものの、機械競技においては形状の小ささから段取りが難しい課題でした。思ったように作業を進めることが出来ずに失敗に終わってしまいました。何度も自分を責めました。残された2つの課題を満足の出来る競技とすれば、まだメダルを狙えるという気持ちを切り替えました。

その後の課題においては、それぞれ余裕を持って作業を進め、納得の出来る製品を提出しました。提出後に自分のエリアに戻ると、多くの会社関係者の方々が応援してくれていたことに気が付きました。戻ったと

同時に大きな拍手が起り、やっと終わったのだと緊張の糸が切れたような気がして、今までのストレスやプレッシャーから開放され体が軽くなったのを覚えています。

閉会式で銀メダルに名前が挙がったときは、嬉しさよりも悔しさの方が強くありましたが、諦めないで最後まで競技した結果であったと感じました。目標であった金メダルには届きませんでしたが、各国の代表選手と競い合い世界2位にまでなれたことは、これまでの辛い訓練に耐えてきたことや、多くの方の思いを胸に戦ったことを証明できることだと思います。

私は2年間フライス盤職種の選手として訓練して全国大会で金メダルを獲得した後選考会を経て日本代表となり、世界大会で銀メダルを獲得しとても濃い技能五輪生活を送ることができました。訓練中は失敗も多く迷惑もかけてばかりでしたが、最後まで信じてくれた指導員や先輩、多くの関係者のおかげでこのような結果を残すことが出来たと思います。

(2頁へ続く)



同窓会ホームページはスマートフォン等からも上記のQRコードを読み取るだけで簡単にアクセスが可能です！

(1頁の続き)

感謝の気持ちでいっぱいです。

今後は技能五輪で培った技能、精神力を活かし会社に貢献すること

◎吉田 悠太 (102卒) 選手

溶接職種 銅メダル

(株) 日立インダストリアルプロダクツ



私は8月22日から27日までロシア連邦、カザンで行われた第45回技能五輪国際大会に参加しました。溶接職種には39カ国、39人の選手が出場しました。結果は4位銅メダルで、自分が目標にしていた金メダルを獲得することが出来ませんでした。沢山のことを学び、良い経験をしました。

昨年の11月に国内大会が終わり12月から国際大会の訓練を始めるにあたって、前回大会に出場された豊田自動織機の方にエキスパート就任を依頼し、訓練の仕方や機材などを借用することが出来たためスムーズに訓練を始めることが出来ました。国際大会と全国大会では採点基準が異なり、戸惑うこともありましたが訓練を進めていきました。

共に、後輩選手たちのサポートをしていきたいと思います。ありがとうございます。

4月には海外での競技会や交流会にも参加させていただく事が出来たため、海外の雰囲気や緊張感を事前に体感することが出来ました。

日本からロシアのカザンまでは飛行機で約10時間、時差はマイナス6時間あり気温も日本より寒いので体調を崩さないかどうかが心配でしたが本番では大丈夫でした。

溶接職種は競技前に機器調整の時間があり準備を行います。自分たちで持ち込んだ変圧器が運搬中に壊れて使用できなくなっていました。また、溶接機が壊れていて交換したりとトラブルが多く起こりました。幸いにも4月の交流会で面識のあった台湾チームから変圧器を借用することができ、競技が出来る状態になりました。トラブルに時間を取られてしまい、満足のいく機器調整が出来ませんでした。

1日目は5.5時間の競技で前半は大きなトラブルが無かったのですが突然変圧器のヒューズが切れてしまい電動工具が使えない状況になってしまいました。指導員にヒューズを調達してもらえたことで、何とか競技は再開できましたが時間のロスになってしまいました。

2日目は9.0時間と最も長時間の課題だったので体力的に大変でした。得点配分の多い課題だったので失敗してもやり直しを行い、納得できる課題を作ることが出来ました。

3日目は休息日で4日目は3.5時間の競技でした。例年にならない課題変更がかけられた事で戸惑いましたが、無事に課題を終えることが出来ました。

私は高校生の時から五輪を始め、通算5年間の集大成として臨んだ

◎沼畑 辰也 (102卒) 選手

機械製図CAD職種 敢闘賞

(株) 日立ハイテクノロジーズ



私は8月末にロシア・カザンで開催された第45回技能五輪国際大会に機械製図CAD職種の日本代表として大会に参加しました。

自社での大会出場は2007年静岡大会以来12年ぶりということもあり課題内容の大きな変化やCAD機能向上に伴い、最初は何も情報が無いところからのスタートでしたが前回大会出場企業の大企業データや、6月に参加した他国との合同訓練の

国際大会でした。結果は銅メダルでしたが、最後まであきらめずに課題を作ることが出来たため悔いはありません。そしてこの銅メダルは私一人ではなく周りの方々のサポートがあつてこそ結果だったと思います。これからはこの経験を活かして職場でも頑張り、次の国際選手が決まれば自分の経験と技術をしっかりと伝えていきたいと思っています。今までご支援、ご声援をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

採点をもとに大会課題の出題形式や採点の傾向の研究、トラブル対処や国際大会基準の課題時間を想定した訓練を行い約8か月の訓練を経て国際大会に出場しました。

まず大会について感じたことはその規模の大きさです。日本は多職種多会場が当たり前ですが、国際大会は全職種が一つの施設を利用して競技を行うので人の多さや大会会場の大きさ、開閉会式の規模の大きさに圧倒されました。また、半日かかる移動時間や気温気候の変化、慣れない食生活に国内大会では感じられなかったところでも苦しめられました。

準備日は競技者全員でチームエキスパートの話を聞いた後一斉にスタートしました。PC設定時間は前回大会で3時間と情報があつたので短い設定時間の訓練をしていました。6時間与えられたので細かな部

分まで設定、確認することが出来たのが良かったです。

競技日は4日間ありましたが全ての日が前回大会を凌駕する物量の課題でした。全て完璧に終了し提出するのは難しいと感じたので途中から取れるところの点数を取る作業に切り替えられたことが他国との差に繋がったのだと思います。

国際大会に出場して国内大会との規模の違いや課題の相違点など様々なことを学びました。とても険しい道でしたが6位敢闘賞を受賞できて嬉しかったとともに多国籍とのコミュニケーションや日本の他職種の金メダリストと関係を持てたことは今後自分にとって更なる成長につながり、かけがえない時間でした。今後は配属部署に戻り業務にあたりと思いますが、OB選手として技能五輪指導では国際大会が素晴らしいものだと思えていくとともに自分の指導した選手が国内大会で優勝できるように選手に育て上げ国際大会で金メダルを勝ち取る選手にしたいです。



# 2019年度『支部役員研修会』を開催



10月26日(土)～27日(日)の2日間に渡り、支部役員研修会を開催した。本研修会の前日には記録的大雨が関東と東北を襲い、その影響で当日の常磐線に遅延が発生し遠隔支部から参加の支部役員が遅れて参加するという予想外の出来事から研修会はスタートし、永村代表副会長の挨拶後、日専校サッカー部1～2年生の案内で校内見学を行った。案内役の生徒と共に昼食、そして声高らかに寮歌の斉唱を行った。寮管理棟前では記念撮影を行い、グループ討論会を開始した。

討論会では、各グループが各々の支部での問題点を出し合い、その中からテーマを取り上げ、侃侃諤諤と意見を述べ合い、最後に討論結果を発表した。終始和やかな雰囲気では進行し、参加者一同で情報を共有することが出来た。討論会終了後の第二部は、河原子海岸の入りぼし旅館へと会場を移して懇親を深め、最後には校歌を声高らかに歌い上げ、全日程を無事に終了した。

## ◇会長あいさつ



山崎 会長

本日は、わざわざ遠路から来られた方をはじめ、沢山の方にご参集いただき有難うございます。支部活動の良い事例や悩みをお互いに紹介開示しながら、今後の活動に役立てていきたいと思います。日専校の強さの秘訣は3つあります。実習・部活を中心に心技体を鍛える先生の育成力。集団生活を通して自律、気配りを学ぶ寮生活。そして第3の柱が同窓会の若手へのサポート力です。10月から3年生の工場実習が始まりました。右も左も分からない生徒にとって、皆さん先輩の声掛けや励ましは大変心強く感じられることでしょう。安全の基本動作など企業で活躍する上で必要な実践力を身に付けられるよう、ご指導をお願いします。

我が同窓会は、来年で100周年を迎えます。本部として会報を年6回発行し、支部役員研修会を開催する一方、各支部では新人歓迎会など種々の活動を展開しています。企業内

の同窓会において、ここまで熱心、しかも長期間に亘って活動している例は、他にはないと思います。会費の集金、各行事の準備など、沢山のご苦勞をお掛けしますが、今後とも、我が同窓会に対する強い誇りと自負を持って、このインフォーマルグループの活動を盛り上げていきたいと思います。

この同窓会の意義を振り返ると、入社した若い時期の不安解消、悩み相談などが第一に思い浮かびますが、昨今の長く元気な高齢者時代の中、50歳代以降の皆さんが、同期や先輩を懐かしみ、同窓会の輪に戻って様々な交流会に参加している点も見逃せません。卒業生の中には、しばらく活動への参加のなかった方もいますが、いつでも門戸を開いて迎え入れ、同窓会の輪をさらに広げていきたいと思います。

さて今般、100周年を前に、日専校同窓会に関する質問を15個作ってみました。この質問に挑戦しながら母校の歴史にも興味を持って確認いただければと思います(尚、質問と解答は、同窓会ホームページ「学校便り」に掲載してあります)。

本日も活発に討議し、懇親を深めていきたいと思います。よろしくお願いたします。

◇副会長あいさつ



永村代表副会長

本日は支部役員研修会にお集まりいただきありがとうございます。

昨日は関東や東北地方が記録的大雨に見舞われ、遠隔支部の方々の到着が遅れてはおりますが、無事に開催出来て何よりです。

毎年春に支部長研修会を行っていますが、その研修会では各支部が1年間の運営をどのように進めていくかを、本部の方針と照らし合わせながら確認していくことを目的としています。

そしてこの支部役員研修会の位置付けとしては、各支部でまさに運営の実務を行う方々を対象として実施しています。

従いまして、本日はグループ討論を通じて各支部の困り事や悩み事を自由闊達に意見を出し合い、また本部の方々とより多く語り合っていたきたいと思います。本日はよろしくお願ひします。



生徒との昼食会



学校案内生徒紹介



テーマ討論会

「Aグループ」



岡山 優貴氏 (94卒・大みか)

「日工同窓会の活動の在り方」

①業務中での活動はどうしているか？

自分で業務配分を調整して行っている。

同窓会は業務外なので時間外に行っている。

上長に理解があるので助けられている。

インフォーマル活動として認められていない。

会社が別会社になってしまい、活動が制限される。

②総務としての仕事は？

活動全体の取りまとめである。

支部役員で分担している。

支部内の会員活動を全て把握する。

〔結論〕

本部としても状況を確認し検討してほしい。  
タブレットPC等を各支部に配布し自宅でも出来るようにしてほしい。  
会社に活動を理解してもらえようように説明していく。

・支部役員を増やして業務分担を行う。

・会社の分社化が進んでおり、従来の活動が厳しくなっている。同窓会活動は縦と横のつながりを大切にしている活動であり、今後も必要であると考え、本部には今後の同窓会の在り方を検討してほしい。

「Bグループ」



古山 卓也氏 (95卒・国分)

〔討論1〕

行事企画立案時に事業環境や会員構成の変化で苦労している点

1、参加率が悪い

・工場の拠点が分かれている。

・昼夜勤等の勤務状態による。

・会員数が多い場合に若手会員の参加率が悪い。

2、準公金の扱いにより抽選会の景品選択が難しい。

〔討論2〕

行事企画立案時に課題があったが改善した点

右記1、に関して  
・行事の開催日を土曜日にする。  
・拠点毎に開催し、交通費等を補助する。  
・勤務状態を考慮して2回開催とす

る。  
・女子会員が参加しやすい企画とする。

右記2、に関して

・カタログギフト等を景品とする。

・若手会員が選択した景品とする。

〔結論〕

・参加率を上げるためには開催日の選定が重要である。

・行事の案内に工夫が必要である。声掛けによる紹介をする。

「Cグループ」



菊田 義朗氏 (91卒・電線)

〔討論1〕

行事企画立案時に事業環境や会員構成の変化で苦労している点

・運営資金が少なく行事開催が難しい。

・新入会員がいないためマンネリ化している。

・職場における会員の割合が多いため、職場行事になっている。

〔討論2〕

行事企画立案時に課題があったが改善した点

・交代勤務があるため、行事を2回開催した。

(4頁の続き)

〔結論〕

・アンケートにより会員の意見を反映する。

〔Dグループ〕



櫻庭 勇気氏  
(94卒・群馬)

〔討論1〕

行事企画立案時に事業環境や会員構成の変化で苦労している点  
・勤務状態により行事が開催できない。また出席率が悪い。  
・参加者が固定している。若年層や中堅の参加率が悪い。

〔討論2〕

行事企画立案時に課題があったが改善した点  
・家族での参加できる行事開催が来ればよい。  
・積極的な声掛けにより参加率を上げる。  
・気軽に参加出来るような時間帯とする。

〔結論〕

・後輩を積極的に誘い、楽しんでもらう。  
・会社施設の使用ではなく、外部施設を企画する。

・平日に昼食会を実施し、話しやすい環境をつくる。

〔Eグループ〕



深瀬 英樹氏  
(77卒・神奈川)

〔討論1〕

行事企画立案時に事業環境や会員構成の変化で苦労している点  
・勤務拠点が分かれているので行事開催地の設定や会費の集金が難しい。  
・準会費廃止により運営資金の管理が難しい。  
・支部を設立して間もないため、同窓会の認知度が低く周囲の理解が得にくい。

〔討論2〕

行事企画立案時に課題があったが改善した点  
・参加率向上のため、2拠点同時開催を試みる。  
・会費の集金を行事毎に行う(参加率に不安が残るが)

〔結論〕

・不安要素は大きいがまずは実行してみる。  
・積極的な声掛けを実施する。



Cグループ



Bグループ



Aグループ



Eグループ



Dグループ



卒業アルバム類



歴史写真パネル

〈日専校の歴史を展示しています〉

日専校の1階では、創立からの歴史を写真パネルにして展示しています。是非一度、ご来校ください。

また歴代の卒業アルバムも展示しています。

特別寄稿

日立工業専修学校の100年



東北学院大学教授 菅山 真次氏

した。新卒採用・長期雇用を前提に、経営マインドを持つ労働者を企業内教育で育てる。戦後型日本経営の強み、その原点ともいえるアイデアがここには含まれています。私が日専校の歴史を調べてみたいと思ったのもそのためです。

当時、私がインタビューした方はすべて、日専校を大変優秀な成績で卒業されていて、卒業後見習生へと登用された方も多く含まれていました。お話からは、お仕事に多大な情熱を注がれたこと（「打ち込め魂仕事の上に」）がひしひしと伝わってきて、感銘を受けました。しかし、さらに印象的だったのは、戦前職工は一生職工扱いで、職員との待遇の格差が大きくて、悔しい思いをした。だから、一生懸命勉強して見習生に登用されたときはうれしく、誇らしかったと、異口同音に話されていたことです。

日立工場勤務課長を務められた故萬田五郎さん（戦後日立市長に就任）は、「日専校は入学倍率が大変高く、家が貧しくて進学できなかった秀才が集まっていた。卒業後設計に配属されたものなどは、大学出の職員よりも仕事ができたが、職員との待遇の格差は甚だしかった。人一倍優秀なだけに、学歴がないだけで差別される制度に矛盾を感じているものが少なくなかった」と話されています。

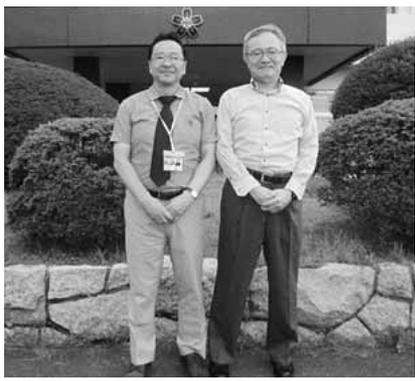
戦後結成された労働組合（初代の日立工場労働組合長は日専校出身者でした）は、職工員の身分制度撤廃を強く要求しました。職員・職工の呼称は廃止され、従業員はすべて日立製作所所員となりました。その後信頼に基づく労使関係が築かれるためには1950年（昭和25年）の大争議の試練をくぐらなければなりませんでしたが、神武景気の到来とともに日立製作所は飛躍的な発展を遂げていきます。そして、まさに「日立の底流」として、高度成長を現場で支えてきたのが優秀な日専校卒業生です。それからの10年間は、日専校がもつとも輝いていた時代でした。

1964年（昭和39年）には東京オリンピックが開催され、日本は見事に戦後の灰燼の中から復興を果たしたことを世界に向けて発信しました。しかし、皮肉なことに、こうした日本の繁栄そのものが、日専校教

育の前提となっていた外部環境を変えてしまいます。高校進学率が急上昇して、新規労働力の中心はみるみるうちに中卒から高卒へと移っていきましました。優秀な中卒労働力を得ることは難しくなり、多くの企業が企業内学校を廃校にしました。

しかし、日立は、日専校教育を継続・進化させていく道を選びました。そうした選択がなぜなされたのか、部外者である私にうかがい知ることができませんが、根底に現場のものづくり能力こそが日立の、ひいては日本の国際競争力の源泉なのだという信念が息づいているようにも思います。

2020年には再び東京オリンピックが開催されます。長期不況の困難な時代を経て、令和の新時代に日本経済が、そして日専校がどのような新しい歩みを踏み出していくのか、これからも多大な興味をもって見つめさせていただきたいと思っています。



8月27日 日専校訪問時（山崎 校長と

《菅山教授のプロフィール》  
東京大学大学院時に「1920年代の企業内養成工制度・日立製作所の事例分析」の学術論文を書く。その後、多数の著書を出版し経済学博士の学位を取得。現在は東北学院大学教授として経営学部に着をおき教壇に立つ。

94・99回生の皆さんへ  
卒業5年・10年の集い開催

- 日時：12月14日（土） 11時40分 集合
- 場所：日専校2階食堂
- 内容：

- ①在校生との昼食会
  - ②在校生説明による校内見学
  - ③交流会（近況報告・情報交換）
  - ④コミュニケーション研修
  - ⑤懇親会（日立駅前居酒屋）
- 詳細についてはホームページの「お知らせ」に掲載してあります。募集は完了しておりますが追加での参加大歓迎です。連絡下さい。

◇母校訪問のご案内◇

卒業生の皆さん、久しぶりに母校を訪れてみませんか。日専校特別企画で「OBの母校訪問のご案内」を行っています。同期の仲間、職場の仲間等、随時お受けしておりますのでメール又は電話で原則2週間前にご相談下さい。

- 指定案内日：2月10日（月）
- 基本スケジュール  
10時00分 日専校校舎前集合  
①見学（実習棟・校舎・寮等）  
②生徒と昼食会  
③参加者で懇談  
12時30分 解散

- ご相談時の連絡内容  
①見学希望日時  
②来校者人員  
③代表者の卒回・氏名・連絡先  
④ご希望事項
- 詳細、連絡先については、ホームページ「お知らせ」に掲載しております。

支部長登場

日高支部



支部長 大河原 孝 (70卒)

日高支部は茨城県日立市に所在する、日立金属(株)茨城工場に所属しています。

茨城工場では電力施設用から一般建設用・産業用に至るまで、社会インフラの整備に寄与する各種製品や、各種機器の小型化・高性能化に寄与する製品を提案・提供しています。同窓生はその一端を担い、日々

2019年度 日高支部役員紹介

支部役員 (17名) 本部役員 (3名)

Table with 3 columns: 担当 (Position), 氏名 (Name), 卒回 (Graduation Year). Lists branch and department officers.

他、ブロック役員14名

2019年度 日高支部年間活動計画

Table with 2 columns: 開催月 (Month), 行事名 (Event Name). Lists annual activities from April to March.

「モノづくり」に貢献しています。支部会員は現在89名で、60回卒から104回卒の会員で構成されています。支部活動の運営にあたっては、主に18名の支部役員が中心となり進めています。

また、ブロック役員には意見や要望、会員の動向を毎月報告してもらい、その内容を支部会報に掲載し、会員相互の情報共有に役立てています。

活動の一環として、入社2年目までの会員に相談員制度を設けて、私とともに相談できる環境づくりに努めています。

主な行事としては、5月に各ブロック役員との懇親会を開催し、役員全員のベクトルを合わせ、活動することを約束し活動をスタートさせました。今年度は2名の新人が配属になり、

新人歓迎ボウリング大会を開催することが出来ました。先ずは顔と名前を覚えてもらうことは新人にとって大事なことで、良い機会になったと思います。

11月には「秋のイベント」が予定されており、多くの会員に参加してもらえような、楽しいイベントを企画中です。

支部総会には、会社総務、同窓会本部、日専校の関係者を招待し開催する予定です。この機会を有意義なものとし、次期活動に活かさればと考えています。

また、日立北地区6支部による交流会も予定しており、支部の垣根を超えた活動をする事で、横のつながりを大事にしていきたいと思えます。最後に、同窓会を取り巻く状況は年々厳しいものになっております。

\* 支部長ってこんな人 \*

私はドライブが好きで、その日の朝「今日はあそこに行こう」と妻を誘い、遠出することが多々あります。

ドライブがてら、現地の美味しいものを食べるのも楽しみの一つで、家族も喜んでいきます。

なかなか家族サービスが出来ない中、ドライブは良い機会だと思っています。

働き方が変化する中、ゆとりの時間も増えてくる事でしょう。その時間を大切にして、これからもドライブを楽しんでいきたいと思えます。

を開催致しました。

当日の参加者は67〜104回卒の土浦支部20名・日立金属土浦支部5名・建機支部4名と例年より若干少なくなりましたが、先輩・同期・後輩など年齢を問わず、いろいろな話で盛り上がり親睦を深めることができました。また、各支部の近況報告では、各支部における悩みや問題点などを話し合うことができ、より一層県南地区として、まとまりを持つという気持ちが生え、各支部における縦の繋がりがだけでなく、支部を越えての横の繋がりがも必要、たという事を実感しました。近いようになかなか交流をもてない、他支部の方々と短い時間でしたが、親睦を深められ有意義な時間を過ごすことが出来ました。

橋本 孝夫 (73回卒 土浦)

県南地区

合同懇親会

しかし、先輩方が築き上げた伝統を絶やすことなく、後進に伝えて参ります。今後、会社のご理解と同窓会本部のご支援を宜しくお願い申し上げます。

2019年11月16日(土) 土浦市にある「四川飯店アルファ」にて県南地区3支部(土浦支部・日立金属土浦支部・建機支部)合同の懇親会



# 学校だより

## トイレ清掃研修

9月8日(日)  
8時20分～13時00分

第190回「茨城掃除に学ぶ会 日専校大会」が開催され、部活動から150名を超える生徒が参加、研修に汗を流し、新たな「気づき」を得ることができたようだった。今後、開催日を検討し、できる限り生徒・職員が全員参加できるような設定を考えていきたい。

### 【初参加者の感想…小田川マルス】

トイレの掃除を素手でするという体験をし、はじめはやはり抵抗があり便器に手を入れたりするのをため



らってしまつたのですが、ボランティアのリーダーの方が真剣に清掃をしているのを見て、自分たちも隅々まで真剣に清掃ができました。おかげで校舎内のトイレは床のタイルから換気扇まですべてが綺麗になりました。この清掃研修で掃除についてのことだけではなく、物事に対しての取り組み方など、多くのことを勉強でき、良い経験になったと思います。

## 寮スポーツ大会

9月24日(火) 午前中の寮部屋替えのあと、午後から寮のスポーツ大会を実施した。このスポーツ大会が新寮役員になって初めての企画運営を行った行事でした。企画は、寮役員全員で昨年のスケジュールや行った種目を見て話し合い、アンケートの結果を元に生徒出身地区ごとのチームを編成しました。実施状況は、前日に寮生全員が集まり1人1種目以上出場するように各スポーツごとにチームを編成したため、本番当日ではスケジュール通りスムーズに予定を進めることができました。感想は、今回が寮役員になっての初めての企画運営をしたということもある

のですが、人を動かして行事を進めて行くことの大変さを改めて実感しました。また、今回の寮スポーツ大会で見つかった反省もあるのだから行つていく行事で改善していきたいです。



サッカー



バスケットボール



フリスビードッジ

## 科技高美術展

### 金賞(特選) 受賞

生徒の夏休みの宿題として実施された、2019年度第48回科技高美術展において日専校では、入賞者(金1、銀1、銅3、佳4)計9名であった。金賞の中でも毎年、全部門合わせて、一名(一組)選出されるか、もしくは該当無しの方も『特選』に書道の部で2M藤枝尊が選出された。大変優れた結果となった。



作品と共に

【藤枝尊】科技高美術展金賞(特選)に選ばれてそのことを初めて聞いたときとても嬉しかったです。

去年の科技高美術展では佳作で次の科技高美術展では、もっと上の賞を取りたいと思つていて前回よりも気合を入れて書きました。結果、金賞(特選)というとても良い賞をもらえたのが良かったです。

来年の科技高美術展でも、特選をもらえるように気合をいれてやつて

いきたいと思つています。今後もきれいに字を書くことを心がけたいと思つます。

## 溶接技能評価試験

### 「JIS検定」実施

10月21日(月)本校を会場にJIS溶接検定が行われた。2年生溶接科23名、一般の方約50名の方が受験した。2年生は初めての専門資格となるため事前補習を実施し万全を期した。試験種目は被覆アーク溶接下向き(基本級)、半自動溶接下向き(基本級)の2種目を受験した。特別教室で2種類の学科試験を行つてから、実習場での実技試験であった。



学科試験風景

### 環境美化で活躍

金曜日の特  
別活動時間を  
利用して、五  
輪の丘、匠の  
道、紅葉ヶ池  
実習棟周辺、  
グラウンド周  
辺など全校全  
域にわたって  
環境整備を  
実施してい  
る。基本的  
には決められた  
範囲を生徒の  
考動アクシ  
ョン(自主活動)  
で取りまとめ  
てる。但し、  
不要な木の伐  
採や急斜面等  
安全管理が必  
要な箇所につ  
いては、OB  
のボランティア  
や職員のス  
キルが大きな  
戦力となっ  
ている。



匠の道周辺



校舎裏



実習棟裏



テニスコート斜面

### 技能五輪出場結果

第57回技能五輪全国大会に本校より、電気溶接職種に2名、旋盤職種に1名が出場した。電気溶接職種は名古屋高等技術専門校で11月9日、10日で溶接競技が終了し、11月17日に压力容器の耐圧試験が行われた。旋盤職種は、愛知県国際展示場にて11月14日、16日に競技が実施された。日専校の五輪出場は、あくまでも職場配属後の下地作りであり、配属後の活躍を期待したい。

**電気溶接職種…【宮嶋慎悟】**初めて技能五輪全国大会に出場しました。初めの方は緊張していましたが訓練通りの動きが出来た為課題がスタートしてすぐに緊張がなくなりました。課題では大きな失敗をする事なく、作成することができました。今回の大会を通して感じたことは失敗をどれだけ小さく又り力バリーをしつかり行えるかが大切なんだと思いました。

**【角守桂亮】**は今回初めて全国大会に出場するにあたり、目標を3つ立てました。誤作なし、材料落下なし、時間内提出です。大会本番では、1度誤作をしそうになりましたが、はつり作業を行い落ち着いてその後も取り組めたので事前に立てた3つの目標を達成することが出来ました。  
**旋盤職種…【塚本夏輝】**今年で2度目の技能五輪全国大会への出場です。

た。出場に当たり、敢闘賞以上を取  
ることを目標にこの1年間訓練に励  
んできました。大会では多少の緊張  
はありましたが訓練通りかそれ以上  
の課題を組み、提出をすることがで  
きたと思います。結果としては19位  
という順位で、目標の敢闘賞には届  
かなかつたのですが自分の実力は出  
し切れたので今回の結果に納得はし  
ています。事業所に行つてからは必  
ず入賞を果たし、最終的には金メダ  
ルを獲得することを目標に頑張りま  
す。



塚本 夏輝



角守 桂亮



宮嶋 慎悟

### 危険物取扱者甲種合格!



**吉田 開飛**  
危険物取  
扱者甲種の  
受験資格は、  
高校生の場  
合、乙種6  
種類のうち4種類を所持している必  
要がある。この度、2年電気科吉田  
開飛が本校で初めて甲種の難関を突  
破した。

**【吉田】**危険物甲種が日専校初とい  
うことで、とても嬉しいのです。合格  
することができたのは、学校の先生  
の協力や友達の応援などがあつたお  
陰でとても感謝しています。今回き  
つかつたことは、約二ヶ月間の連続  
した長い勉強をしたことです。今回  
合格できたことが自信に繋がったの  
で、これからもいろんなことに挑戦  
していきたいです!

### 先輩の母校訪問

9月16日(月)53回卒と73回卒計  
23人、10月21日(月)土浦支部22人、  
11月21日(木)43回卒17人に母校を  
訪問頂いた。校門の入口から風景は  
大きく変わっている。校舎周辺の鬱  
蒼としていた林が、透き通つた散策  
路(匠の道)と紅葉ヶ池に変身、教  
室には大型ディスプレイが、電気・  
機械・溶接実習の設備や環境も大き  
く変わっている。昔ながらの仕上げ

作業では、  
特に生徒  
との会話  
が弾んだ。  
寮の見学  
では、食  
堂、食事  
各部屋の  
様変わり  
に驚いた  
ようだ。



仕上実習場にて

見学の後  
には代表  
生徒と昼  
食をとり  
ながらの  
懇談の後、  
寮歌を斉  
唱し、大  
いに盛り  
上がった  
ひと時で  
あった。  
また、校  
舎一階の  
展示室に  
は、日専  
校の歴史  
が整備さ  
れており、  
昔を懐かし  
んでいた。校  
内環境の向  
上にも考動  
アクション  
がうまく機  
能しており、  
今後とも生  
徒の自主活  
動が一層活  
性化すること  
を目指してい  
る。



教室にて



昼食後の寮歌斉唱

第22回 N S 会  
ゴルフコンペ開催



2019年10月10日(木) 日立ゴルフクラブにて第22回 N S 会、ゴルフコンペが開催された。

朝から抜ける様な青空で風も穏やかな絶好のゴルフ日和に、次々と同窓生が到着してくる。受付を済ませご自慢のゴルフスタイルに決めてパットやアプローチ練習場へ向かう。

朝礼で幹事からルールや注意事項の説明があり、記念撮影の後、OUT、INに分かれて8時過ぎにプレー開始となった。

筆者もINスタート1番目の組なので、急いで同期の待つティーイングエリアへ。スタートホールはパー5のロングホール、ティーショットは左の斜面へ、2打目はトップして地をはうようなライナー、3打目でもグリーンに届かず前途多難なスタートとなった。

一打、一打を懸命にやってもスコアに結びつかない。むしろ何とかボギーで上がろうと必死で昼食を挟んで午後は少し汗ばむ中で熱戦は続いた。

ホールアウト後は、風呂でサツパリしてからパーティー会場へ移動。元校長の石川正幸氏による乾杯の音頭で表彰式が始められた。

優勝から順に入賞者、飛び

賞の発表と賞品の授与に続いて、日立ゴルフクラブから提供の特別賞の抽選があり、22回記念のオルゴールは笹島弘氏(44卒)へ贈られた。優勝とB・G賞の方からスピーチをいただき、最後に児島強氏(61卒)の力強い三本締めで閉会となった。

次回は来年10月9日(金)を予定。今回は54人の参加と少し寂しかったので、同期の会員に積極的に声を掛けていた、多数の参加をお願いします。

主な成績は次の通り。

- 優勝 千田 政見(48卒)
  - 準優勝 鈴木 利文(49卒)
  - 3位、B・G 山崎 輝雄(49卒)
  - 4位 藤 良典(54卒)
  - 5位 飯川 充男(49卒)
  - B・B賞 児島 強(61卒)
  - B・M賞 根本 満(61卒)
- (54卒 大森晴男)

東海地区懇親会開催

2019年10月4日(金)、令和元年度東海地区懇親会を、12人の参加により、常陸太田市「ふるさとセンター」童ちゃん乃湯で開催した。

バスで現地到着、温泉で入浴を済ませ、恒例の記念撮影。その後、2人の物故者(笹島庄司氏40卒12月、中村誠氏43卒4月)への黙とうを

施した。

地区長・橋本汎氏(46卒)の開催挨拶後、最年長の秋山昇氏(39卒)の音頭で1年ぶりの再会に乾杯した。地区長より本年度の春の叙勲で石井新氏(52卒)が瑞宝単光章を受けた旨報告があった。

関田幹事(53卒)まとめの参加者、に欠席者の近況報告があり、郷土料理に舌鼓を打ちながら酒をくみ交わし、それぞれ自慢のカラオケを披露しながら歓談した。

話題は会社生活の思い出、地域での活動等多岐にわたるもので、楽しい歓談のひと時であった。また、吉沼靖浩氏(44卒)より家庭菜園で収穫したビッグピーナツの差し入れがあり、新鮮なゆで立ての味覚を満喫した。

今回、62卒の新人2人(今隆彦氏、藤本修三氏)が参加されたこと、カラオケ部屋を貸し切ったこと、寮歌校歌を歌うことが出来盛り上がった。最後に地区長、取りまとめ幹事の



通信委員会の決定に基づき内容を吟味、盛り上がった懇親会

留任を確認し、来年度の再会を誓い、今氏の手締めで会を閉じた。今回の内容は、地区長の提案で通信委員会(5月)を開催して決めたもので、参加者の評判は大変良かった。(53卒 関田芳巳)

◇お詫びして訂正します。

前号439号8頁「ひたちなか地区懇親会」の記事中、第2段右から1行目の漆原は淡原の誤りでした。謹んでお詫びいたします。

(編集小委員会)

45卒

10回目の同期会を開催

初夏の風が頬に心地よい5月17日「ホテル テラス ザ スクエア日立」で、45卒26人が参加し、第10同期会を開催した。

1年ぶりの再会を喜び、そここで話に花を咲かせている仲間たち。この様子を見ながら同期の絆を改めて認識し、令和元年に第10回という区切りのよい今回の同期会を機に、いままでの歩みを世の中の出来事とともに振り返ってみた。

第1回は年号が変わったばかりの平成2年3月、同窓会在会30年を記念して「サンピア日立」での開催だった。30年ぶりの再会に66人が集合。おおいに盛り上がり、翌日は二日酔いで同窓会総会に出席した。

世の中は東西ドイツの統一で平和の機運が高まった時期だった。

第2回は定年後5年を経たころ、そろそろみんなで集まろうかとの声が高まり、伊坂君を中心に有志が集まって名簿づくりに着手した。その結果、対象162人中、127人の消息を確認した。平成18年2月、当時初綺保健センターでマネジャーをしていた田尻君が手配し、同所で開催した。60人と多数が参



平成初めに第1回、いろいろな社会の動きの中で令和元年第10回を迎えた

加した。

ライブドアの粉飾決算が話題になったときだった

第3回は平成20年2月に開催した。会場は初綺保健センターが閉鎖になったので「東暁館」となった。参加者は50人を超えた。

リーマンショックに始まり、世界同時不況のさなかだった。

第4回は平成22年2月、卒業後50年、さらに学校創立100年という記念すべき年の開催だった。会場は「東暁館」だったが翌23年3月東日

本大震災の発生により閉鎖された。

第5回は平成24年2月、我々もいよいよ70歳の大会に乗り、古希を迎えた。初めて料理店で開催した。

この年東京スカイツリーが産声を上げた。

第6回は平成26年5月、会場を「ホテル テラス ザ スクエア日立」に移した。

以降同所が定会場になる。大粒の雨が降りしきる中での開催。ちなみに前日も大雨だった。

この年、消費税が5割から8割に引き上げられた。

第7回は平成28年5月、いよいよ後期高齢に突入。健康管理や介護が共通の話題になり、会えるときに会っておこうと、次回から隔年開催を毎年開催にした。

ドナルド・トランプ氏アメリカ大統領に就任。

第8回は平成29年5月、参加者28人と減少。健康や介護を理由の欠席が多くなってきた。

稀勢の里の横綱昇進、桐生祥秀の100秒で10秒を切る9秒98が話題に。一方で森友、加計学園の話題も。

第9回は平成30年5月、めでたく喜寿を迎えた記念の同期会となった。

そして、今回の同期会。平成の初めに第1回、令和の始まりに第10回を開催できたことは巡りあわせの妙というべきかも知れない。これまで同期会の計画、運営に携わってきた

幹事諸氏に心から感謝申し上げたい。また、鬼籍に入られた30人の同期生に衷心から冥福を祈る。

我々45卒の仲間も、間もなく傘寿に手の届くところまで来ている。自

第14回「三九会」開催

「三九会」は、昭和39年、49回卒業生の「溶接科」の仲間が集うクラブ会である。

これまで、「いこいの村・潤沼」を中心に開催していたが、今年、「鵜の岬」を会場に選んで、令和元年9月11日（水）～12日（木）に開催した。卒業時には、43人いた仲間も、7人は既に物故者となった。毎回、返信をもらっていた29人に案内を出したところ、今回の参加者は、行田先生も含めて13人となった。

「鵜の岬」の大浴場からの展望を楽しみつつ、日専寮に戻ったような仲間との、談笑しながらの入浴が終了した。午後6時からの懇親会では、恒例の近況報告となった。いかに多病息災の時代とはいえず、ほとんどがが身の病気の話である。しかも、最初は遠慮しながら話していたが、いつの間にか、それが自慢話の様になる不思議な和気あいあいの雰囲気の中で、旧交を温め



溶接科の絆は鉄よりも固い。幹事の頑張りで今年14回目の開催

身の健康、老老介護など世の中の例にもれず同じ問題を抱えている。「また集まろうよ」という声がある限り同期会を続けて行きたいものである。（田所賢二）

ることが出来た。

翌日は、朝食後に、明日からの「元氣」の源を手土産に、お互いに健康で参加できることに感謝しながら、来年9月の再会を約して自由散会となった。

その後、有志でグランドゴルフを楽しみながら、正午ごろ散会した。（鈴木利文）

いつみ会(53卒)

古希記念一泊同期会を開催

2019年9月16・17日に、古稀記念一泊同期会を、第一部・母校訪問、第二部・懇親会として実施した。

母校訪問には同期生21人と他3人の同窓生が参加、山崎校長の熱意あふれる説明と次々と変革を試みている「熱血校長」に脱帽。我々の時代とは全く異なつた学校に変わって驚いた。教育環境、設備等どれをとっても半世紀前より格段に良くなつており、うらやましくさえ感じた。

きつと巣立つて行く生徒たちは、それぞれの場できつと、大いに活躍することだろう。

食堂にて、選ばれた(?)生徒たちと昼食を共にしながら懇談後、全生徒達と合唱した寮歌が、筆者の奏でるハーモニカ方の音色と共に、食堂いっぱい響き渡つた。

歌い終わった時の、大きな歓声と拍手に思わず目頭が熱くなった。また同期生の洋画家で日展審査員の菊池元男氏は、この機会に絵画を学校に寄贈することを決め、130号(194cm×



古希を記念し、かみすわ山荘で一泊懇親会。第1部では母校の訪問を行うなど充実した内容

162cm)もの大作が近日中に生徒たちの前に登場するはずである。横浜から駆け付けた照沼昇氏は、現役時代、横浜工場出身の校長と消防隊で一緒だったそうで、お互い再会を喜び合った。

校長・歌川先生、学校関係者の細やかな配慮と気配りに感謝したい。来年2月に同様の企画があるので、今回都合で参加出来なかつた方は、この際に参加してはどうだろうか。

懇親会は初めて日立市内の「かみすわ山荘」を利用し、25人が参加した。今回も50卒の岡部健氏が母校訪問と共に特別参加、すつかり顔なじみとなつた。

初参加者はつくば市在住の沢辺安夫氏。卒業以来一度も顔を見ていなかったため最初は思い出せなかつたが、話をしているうちに当時がよみがえつて来た。初参加者の存在は大きく、新鮮味のある雰囲気となつた。

「国分50会」同期会開催

2019年7月6日、常陸多賀駅前の居酒屋「魚民」において、会員10人中5人が参加して50卒(国)配属の同期会を開催した。

本来は、山形県飛島への旅行を予定していたが、年には勝てないのか体調不良者が続出、腰痛等で長旅への不安を訴える者も出て旅行は断念。しかし、「継続することにも意義あり」と急ぎよ近場での暑気払いに変更した。参加者も会員の半数と小規模開催に至つた。

17時半常陸多賀駅前に集合、参加者が集まつたところで、さてどこに行こうかとなり、多数の声で目の前

宴に先立ち、今年6月に亡くなつた、宮本昇氏(旧姓・金沢)と山内良一氏に対して黙とうを捧げた。

早々と山荘に着いた者から「練習」と称してビールを飲んでいたせいか、本番ではすぐにビールが底を尽き、幹事をあわてさせた。その辺のことも考慮して十分に用意したつもりであつたが、差し入れの豊富なアルコール類で何とかしのいだ。カラオケなどなくても話は尽きなかつた。来年も一泊同期会を予定している。健康に留意し、皆元気な姿で会いたいものである。今まで参加出来なかつた方も含め、多くの方の参加を期待する。(榊原愛正)

の「魚民」に決まつた。

現役時代にはなじみの深かつた居酒屋も十数年が過ぎた現在、しばらくぶりの者が大半で、本会としては初めての開催である。店内に入ると靴を履き替え、案内されたこじんまりした個室の掘こたつ型のテーブルを囲む。足腰の弱っている我々世代には大助かりで、まずは席に着く。

昨年は6人が参加して、10月9〜10日に日光・鬼怒川方面に一泊旅行を実施しているもので、それ以来の再会であつた。注文も端末からと少し戸惑いつつ、好みの料理をリクエスト、出そろつたところで生ビールでの乾杯で会合をス



一泊を断念、久しぶりに地元の居酒屋で乾杯

タート。しばし料理に舌鼓を打つたあと懇談に入る。話題も欠席者が多いことに端を発す。3人は病氣療養中、彼らがどんな様子かを確認し一日も早い回復を祈る。また出席者にも健康に不安を抱えている者もおり、中には近々、男の病気で手術を受ける者もいて術後の早期回復を激励するなど、健康に関する話を中心となる。

70代も半ばに近づき、ますます真に「老」と共生する年齢となり、各々の健康づくりによる体調維持の大切さ、「健康年齢」を大いに意識しながら生活しようと思ひ合った。

名残を惜しみつつ萩野谷君による一本締で、来春のより多くの会員での再会を祈念して散会した。(大山文雄)

# 自分を元気にする方法 ⑮

自分を「見える化」する  
会長 山崎一平



業務目標を達成する為に、目標管理制度がありますが、私が留意するポイントは①できた事②できなかった事③次やりたい事の3つです。これをチームで見える化し、上長や仲間と共有できれば、仕事は改善・前進していきます。今回は、自分を「見える化」する方法と一緒に考えていきます。自分の見える化には、次の5つの法則があります。

- ①そもそも、過去の自分、今の自分、将来の自分は、別人である。
- ②自分の未来を見ようと思わなければ、いつまでも見えない。
- ③見ようとしても、すぐには見えない。
- ④見続けていると、段々と見えてくる。
- ⑤見る手段は、話すこと・書くこと・考えること。この3つは互いに裏で繋がっている。

では次に、見る手段である「話すこと、書くこと、考えること」を深掘していきます。

## 1 話すこと

読書、講演会、映画、テレビなどを通して、自分なりに役立った事を積極的に周囲に話しましょう。それを一番聞いているのは、案外と自分です。話しながら、自分なりに情報を整理し、記憶に残せます。私たちは話しながらも、あてもない、こうでもないと考えています。その際、自分をオープンにし、少々恥も披露する。そんな気持ちが大切です。

## 2 書くこと

話しても形には残りませんが、書くことで残

ります。後で読み返すと、過去の自分が別人であることが分かります。「へえ、あの時はこんなことを考えていたんだ」と、過去の自分を今の自分が外から見えています。振り返りを書いて過去を見る化し、目標を記載して未来のカッコイイ自分を「見える化」して下さい。私は今「振り返り」と言いました。私は「反省」という言葉は使いません。何故なら反省という言葉には、できなかった事を振り返る響きがあるからです。自分を励ましながら育てていく為にも、悪い点だけでなく、良かった点も記録しましょう。基本的に、肯定形で積み上げていく事をお勧めします。

## 3 考えること

そもそも、何を考えるのか？具体的に考える内容は、①うまく行った事（成功と自信）②うまく行かなかった事（課題・問題）③明日やりたい事（対策）④気になった事（報連相の材料）の4つです。ところで、考えるのは、朝の時間が向いています。少し早く起きて、落ちついた時間を30分作ってください。睡眠中に、脳内で、前日仕入れた情報が整理されます。昨日、自分なりに考えたアイデアのヒントが、意識の下に沈んでいます。それが朝の時間だけ、アイデアとしてまとまった感じで、チヨコッと湧き出ます。そのアイデアを、さっとすくい上げるのです。朝は、無意識の脳を活用する時間です。

ここで、1つワークショップをやってみましょう。部活動の練習を例に取って、グループで自分を振り返る方法を紹介します。3人で1チームを作ってください。仲間A、仲間B、自分の3人です。こういう

感じて会話が進んでいきます。  
仲間A：「今日の君の練習成果は、10点満点で、何点だった？」  
自分：「うーん、6点かな。」（あまり考えすぎないで、感覚的でよい。）  
仲間B：「どうして6点取れたの？その理由を教えて。」  
自分：「そうだね。守備練習では、エラーは1個だけで昨日より少なかった。打席では、2塁打を一本、久しぶりに打てた。」  
仲間A：「すごい。よかったね。では、1点足して、7点になるには、次どうすればいいかな？」  
自分：「打率をもっと上げたいので、バットティング練習が大事だね。」  
仲間A：「そのために、明日までにできることは何かかな？」  
自分：「えーと、そうだね。部長に勧められた20分程度の打撃練習のビデオがある。それを観て、参考にすべき点を1つ見つける。」  
仲間A：「分かった。いいじゃない。じゃあ、それをやってみようよ。」

一人2〜3分で3人順番に行います。できれば、歩きながら話すのが良いでしょう。論理的に考えて、整理しようという発想ではなく、徒然（つれづれ）のままに、自然と浮かんでくる直感（感覚・感想）を大事にして、それを言葉にしてみましょう。ここで大切な点は、6点と言った時に、「なぜ4点足りないの？」と否定形で責めない事です。積みあがった6点を誉めることから始まります。その上で、明日までに、あるいは1週間後までの短期間で実行できる目標を決めることがポイントです。

まさに、「チリも積もれば山となる」です。チリは、小さく刻んだ目標を達成した個々の成果です。山は、自分の大きな目標に到達できることです。「話す・書く」で、頭の中を「見える化」していきましょう。

# 2019年度 役員会議議事録

第3回10月2日(水)

【山崎会長あいさつ】

現在、日専校の教室の2つをOBの部屋として整備中である。完成には数か月掛かる予定であるが、支部役員研修会の際には見学が可能である。先日、20名程度のOB（70歳）の方々が学校を訪問し、学校見学と生徒との交流を行い、生徒にとっても非常に良い経験となりました。

【永村代表副会長あいさつ】

2019年度も後半の活動となります。来年度の予算検討や100周年行事の計画等を実施していくため、皆様の協力をお願いします。

【各委員会活動経過報告】

(1) 総務

・6月に実施された支部長研修会のアンケート結果について報告。8割以上が好意的な意見であるが、改善を求める意見もあったため、来年度はそれらを踏まえて計画する。

(2) 企画

・支部役員研修会の開催について説明。

(3) 広報

・9月に439号を発行し、11月に440号を発行する。

(4) 地区活動

・京浜地区の4支部合同行事に参加予定である。

(5) 本部会員運営

・6月21日(金)に「わが宿の集い」を開催した。南極越冬隊を経験した戸村氏(58卒)に講演をしていただいた。

(6) 事務局

・同窓会の会則について、個人情報への取り扱いが現状の法令にそぐわない部分の見直しを実施する。

(7) 100周年実行

・総会会場のレイアウトや計画の進捗について資料により説明。

【提案審議事項】

(1) 日専校より、学校卒業後5年と10年を経過した同窓生に対して交流会開催の提案があった。現在94卒と99卒に参加募集を掛けている。

(2) 同窓会の「部活動支援金」にて、日専寮管理棟前の整地工事を実施した。

会員の消息

◎結婚

おめでとー  
おめでとうございます



◎定年退職

ご苦労さ  
ました



- 大内 四郎氏(63卒・佐和 19.6.30)
- 八幡 守己氏(63卒・国分 19.7.31)
- 山崎 光一氏(63卒・佐和 19.7.31)
- 羽柴 善一氏(63卒・国分 19.8.30)
- 菊池 覚氏(63卒・日立 19.9.30)
- 中野 泉氏(63卒・大みか 19.9.30)
- 鈴木 新一氏(63卒・水戸 19.9.30)
- 菊池 俊夫氏(63卒・日立 19.10.31)
- 黒沢 暁氏(63卒・佐和 19.10.31)
- ◎退職
- 中田 将人氏(97卒・国分 19.7.31)
- 鈴木 一希氏(93卒・日立 19.9.30)
- 高久 祐樹氏(87卒・水戸 19.9.30)
- 島山幸太郎氏(88卒・那珂 19.10.13)
- 小松 大将氏(96卒・山崎 19.10.31)

◎会員逝去

謹んでご冥福を  
お祈りいたします

- ◎本部会員
- 村田 康寿氏(40卒) 19.7.2
- 木村 弘司氏(30卒) 19.9.27
- ◎ご家族逝去
- ◎家族死亡
- 薄井 健男氏(89卒・日高) 19.8.19
- 滑川 弘美氏(66卒・大みか) 19.9.14
- 小澤 利男氏(64卒・日立) 19.9.19
- 森 教郎氏(78卒・日高) 19.10.24
- 佐々木康雄氏(70卒・日立) 19.10.26
- 関 郷平氏(94卒・群馬) 19.10.31

卒業アルバムに  
関するお願い

5頁に展示室をご紹介しましたが、その中に卒業アルバムもあり、卒業順にいつでも手に取ってご覧いただけるようにしたいと考えます。

ご依頼ですが次の卒回のアルバムが、日専校に保存されていますので、お貸しいただける方、コピーをとってご返却しますので、日専校までご連絡願います。

- 34、62、63、32、31、27回卒以前全て
- 34、55、54、47、44、42、36、35、

☎0294-28-5009 (日専校)



▼今般の風水害にて被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。自然災害の脅威を改めて感じるとともに、復興支援できることや事前の備えについて考える機会となった。▼2019年9月〜11月にラグビーワールドカップが日本で開催され、日本代表史上初のベスト8という偉業に感動した。試合はもちろんのこと、大会を盛り上げるためのさまざまな取組み(中継時のルール解説、ドラマ連動など)も勉強になった。100周年を迎える日工同窓会も「ONE TEAM」で歴史をつないでいきたいと改めて思った。

(肇)

▼再来年は日工同窓会発足100年となる。歴史ある日専校の一員になれたことをちよびり誇りに思う。▼会報担当になって3年目になる。会報作成は工場での業務の合間を縫ってやっている。文章の校正などは休日に集まってやっている。給料は出ない、ボランティアである。これを何年も続けている先輩がたくさんいる。「ああ、これが日専校なのか」と先輩の偉大さを改めて感じる。この会報を、一人でも多くの同窓生が読んでくれることを切に願う。また、もっと読みたくなるようなものにしていきたい。

(貴)